

- 新潟県では、ぶどう栽培において、既存品種(巨峰など)の作付が7割以上を占めているが、近年では高温による着色不良等の発生が懸念されているほか、実需や消費者からは、醸造用や無核品種へのニーズが高まっていた。
- また、新規の栽培者を確保するため、省力的な栽培技術の確立が求められていた。
- このため、優良品種及び省力的な栽培技術の導入・定着を図った。

具体的な成果

1 地域に適合した栽培技術の実証

消費者ニーズの高い生食用ぶどうである「シャインマスカット」及び「クイーンニーナ」について、技術実証を行い、効果を確認することができた。

- ①早期成園化(シャインマスカット)
- ②簡易雨よけ(シャインマスカット)
- ③着色向上(クイーンニーナ)



【植栽3年目のシャインマスカット】



【透明袋利用のクイーンニーナ】

2 産地と実需者とのマッチングの実現

大型直売所や菓子店への販路拡大や新商品の開発、ワイナリーとの契約による醸造用ぶどうの栽培拡大が図られた。

3 導入マニュアルの作成

栽培実証等の結果をとりまとめ、マニュアル「大粒系種なしぶどう栽培チャレンジの手引き」を作成した。

本県産シャインマスカットの出荷量が増加しているほか、醸造用ぶどうの新規導入が図られている。

大粒系種なしぶどう栽培
チャレンジの手引き



令和3年3月
新潟県農林水産部経営普及課

普及指導員の活動

■導入実証の実施とマニュアル作成

2年間で県内のべ16か所に実証ほを設置し、品種特性の把握と、品質向上や省力化技術の確立について実証を行い、導入マニュアルを作成した。

■検討会及び栽培指導の開催

既存のぶどう栽培者のほか、水稻育苗ハウスへの導入意向のある農業者等に向けて、きめ細かな栽培指導や、導入実証の検討会等を行い、現場にあった技術の確立や、新規栽培者の確保を図った。



【育苗ハウス利用の研修会】

■実需者ニーズ把握及びマッチングの実施

市場との情報交換に加え、直売所や菓子店、ワイナリー等へのPRを行った。



【シャインマスカットの新商品】

普及指導員だからできたこと

普及指導員は栽培技術や指導経験を有するとともに、多雪等の気象条件や、ぶどう以外に生産されている品目の作業量、地元実需者のニーズなどを十分に把握していることから、県内各地域の実情に応じた導入指導を行うことができた。

新潟県

「多雪地域に対応したぶどう新品種の省力化栽培技術の確立」

活動期間：令和元年～令和2年度

1 取組の背景

新潟県におけるぶどう栽培は、「巨峰」などの既存品種の栽培面積が7割以上を占めているが、近年では高温による着色遅延や着色不良等による品質低下が懸念されていた。

また、消費者には「シャインマスカット」に代表される、無核大粒品種のニーズが高まっているほか、実需者においては醸造用品種の増産要望もあることから、これら新品種の導入・定着を図ることとした。

導入にあたっては、新たな栽培者を確保するため、多雪地域に適し、省力的な栽培技術の確立も図ることとした。

2 活動内容

(1) 地域に適合した栽培技術の実証

①早期成園化（品種：シャインマスカット）

水稻育苗ハウスを活用したアーチ栽培において、植栽から早期に収穫が可能な仕立て方法である短梢平行整枝栽培の導入実証を行った。

②簡易雨よけ被覆（品種：シャインマスカット）

既存のぶどう棚とトンネルメッシュ資材を活用し、簡易雨よけ被覆の導入実証を行った。

③着色向上（品種：クイーンニーナ）

環状剥皮や摘葉、透明袋による袋掛けなどを活用し、着色向上技術の導入実証を行った。

(2) 検討会及び栽培指導の実施

県内6地域での実証成果について、全県で共有するための検討会を実施したほか、各地域では、農業普及指導センターが主体となり、既存のぶどう生産者や、新規にぶどう栽培の要望がある農業者を対象に、実証成果の検討会や、栽培指導会を開催した。

(3) 産地と実需者等のマッチング活動

各地域ごとに、市場や地元実需者（直売所、菓子店、ワイナリー等）との情報交換や、販路開拓のためのPRなどを実施した。

(4) 手引きの作成

2年間の実証結果等を取りまとめ、栽培マニュアル「大粒系種なしぶどう栽培チャレンジの手引き」を作成し、農業者や関係団体等へ配布した。

3 具体的な成果

(1) 地域に適合した栽培技術の実証

①早期成園化（品種：シャインマスカット）

植栽3年目で目標どおりのおおむね1 t/10aの収穫量を確保できた。

果実品質として、糖度は目標下限の18%以上で、あったが、一部無核化処理の効果が不十分な房が見られた。

②簡易雨よけ被覆（品種：シャインマスカット）

雨よけの設置により、新梢のべと病の発生・拡大及び果実病害の発生抑制に一定の効果が見られた。

果実品質として、慣行栽培との間に房型、粒数などの差はなく、雨よけを設置した方が成熟がやや早くなった。

③着色向上（品種：クイーンニーナ）

環状剥皮を行うことにより、着色や糖度が向上した。剥皮した傷口はテープで被覆し、樹勢の低下は見られなかった。

摘葉処理は7月下旬と8月中旬実施を比較し、7月下旬処理が着色進展、果実品質も良好であった。一方、果実袋（透明袋）の利用による着色向上効果はわずかであった。

(2) 産地と実需者のマッチングの実現

①直売所、菓子店等とのマッチング

多雪地帯である南魚沼地域で、水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」を導入し、植栽3年目から目標収量を確保できたことから、地元の大型直売所や菓子店への販路開拓を行った。

結果、直売所での高単価での販売や、菓子店での新商品開発、さらには

市のふるさと納税の返礼品への選定などの成果が得られた。

②ワイナリーとのマッチングの実現

上越地域では、地元ワイナリーとのマッチングにより、醸造用ぶどうの新規導入が進められた。令和2年度には、水田転換園等で新規植栽され、稲作法人での新規導入の取組も行われた。

(3) 新品種の出荷量の増加

新潟県内におけるぶどう出荷実績に占めるシャインマスカットの比率は、平成30年度の11.2%から、令和2年度には23.4%に増加している。

一方、巨峰の比率は63.7%から54.7%に低下している。

4 農家等からの評価・コメント（新規導入実証に取り組んだ農業者）

水稻育苗ハウスを活用し、新たな品目としてシャインマスカットの導入に取り組んだ。パート従業員とともに、雨天日にハウス内のぶどう管理作業を行うことで、水稻や野菜との作業競合を回避できた。また、早期に一定の収穫量を確保できたことで、直売所等へ積極的に販路を拡大することができた。

5 普及指導員のコメント（農業革新支援担当・加藤 文洋）

県内6地域の農業普及指導センターと連携し、せん定や収穫等の時期に応じた指導会で、生理生態と生育速度に合わせた管理指導を行うとともに、果実品質調査から販売のアドバイスまで網羅的に行うことにより、新品種の導入推進や新規栽培者の確保につなげることができた。

6 現状・今後の展開等

栽培の手引きを活用し、地域の実情に応じた品種や栽培技術の導入により「水稻+ぶどう」等の経営類型を確立し、地域に波及させていく。